シ

テ

國 =

ヲ

愛

ス

w ヲ ,

Ü

ア

叉

將 界

來

勃

~

*

我

造 憂

工 Ł

業 テ

家 外

國

天 壆

然 的

用

抑 ヲ

我 ス

ヲ

次 決 彼

ス

jν

ガ 家

加

*

事

r

ラ 所

是

v

愛 ラ

國 ズ = ŀ

精

神

悖 麒

w ス =

所

業

ナ

ŋ 國 ラ

我 染 ン

國 料

獨

逸

ŀ

國

狀 ガ 國 w

ヲ

堲 產 化 ŋ

=

ス

v

11 料 I

工染 利

料 ヲ ₹

如

*

Æ

單 鮗 w

尾

附

₹/

テ己

3

ズ ŀ

徒 國

ラ 益

世

j

大 得

鵱

後

v

ザ

事

ヲ 至

製 7

染 F.

料 ŧ

賞 制

用 業

ヺ

奏

3/

テ

Ħ

名聲 顧

ヲ

羸

チ

タ

w

رر

誠

=

羨望

1

=

坲

工

ザ

然

IJ

F

雖

我

國染

織

(家安

ヲ

朝 沂

#

的

大 於

戰

阖 w

發 織

ス

w

P

折 ル

角 發

發

達

也

w

我

漩

織

業

رر E

大

打

墼

ヲ テ

蒙

ij

テ

恐慌

ヲ

來

セ テ

IJ

是

 ν

他

万

ヲ

賴

₹

テ

自

給 而

我

邦

=

4

染 勃

業

淮

達

٧.

實

=

顋

荖

-}-

w

=

3/

111

界

的

市

場

=

於

敢

テ

遜

ナ

キ

=

至

 ν

IJ

3/

テ

逸

٧,

利

產

ヲ ij 墜 7 様 3/ w 7 = 引 昍 ッ タ 治 カ ガ -冷之レ 博物館 年 頃 = 始 反 X シ 方 テ テ 大 ハ 大學 館 學 長 デ 1 ガ رر 交替 方 本 方 į 植 3/ = 物 テ 紬 館 壆 植 ٠, 1 物 歳 方 壆 月 針 講 ガ ŀ 戀 共 義 ij ヲ 且 進 ス 瘆 官 w 制 シ 樣 テ Æ ۱ 篴 改 ナ = ッ 今 'n テ Ħ タ 生 等 氣 1 發 r 達 結 w ヲ 果 噿 天產 ナ 風 ス 年 部 = ヲ 至 ۱ 逐 忽 ッ テ Ŋ チ 漲 其勢力ヲ * (未完) w 方 失 デ

植 物

崹 信 Щ 郞

篠

血 科 用 協 國 也 ガ 學 ス 狀 ヲ ザ 旣 寙 = 豣 ŋ 究旺 ďλ = 譝 3 ij m. 伙 罪 旣 7 y 戍 ッ + 注 威 ラ = ナ ` 實 家 グ ア ズ w 窺 者 ヲ 國 ン w 愛 雚 110 セ = = ラ Ш ス **≥**⁄ ア ァ テ ラ ラ <u>۲</u> ス w 良民 べ 併 ズ ズ キ ャ Æ 理 天 是 例 ア B 然 ヺ ナ jν v J IJ 染 余 染 \mathcal{F} jν ラバ 果 料 料 1 默 セ Ħ = = 乏シ リア 天然染料 觀 w **シ**/ 哉獨 難 w ク キ モ = 逸 其 外 --ŋ 國 需 事 1 國 ン 民輸 用 ナ 耡 ーヲ IJ = 入 化 ۱ر 之ヲ 劇 ヲ 現 學 ハ 防 代 此 的 ス 遏 外 w 理 = 人 事 想 國 於 Ī **≥**⁄ チ染 產 染 ガ ァ テ 新 IJ 料 谿 = 仰 料 明 キ ヺ = 化 セ 而 # I 重 壆 業 ラ **≥**⁄ 年 用 的 最 テ ν 4 **≥** 莫 テ 此 Æ 内 Ĺ 理 Î 尖 淮 地 想 染 來 ル ナ 料 豐富 約 w セ ハ I ヲ 輸 八 w 業 創 + ス ۱۷ ナ 獨 年 家 製 ヲ w 逸 間 天 ŀ ₹⁄ ナ /然染 以 -j-化 セ 奴 テ ŋ シ 力 國 國 獨 料

ノ植物

乃

至コ

タ

ì

ルしノ

3

ラ

原料

ŀ

ナ

サ

ズ

へ庸

ク天然染料

=

æ

其原料

ラ索

ムベ

キ

ナ

y

斯

≥⁄

テ

、我國獨

特

染

嵙

創

キ

我

ŋ

テ

使用

引

ア

Ŧī. 年 七 Œ 大 法以 至リ 染料 植 類 物 想 テ之ヲ世界市 かりやす ・時價 アラ撃 ショ をひ 外更ニ天然染料ヲ精製加工 於 **≥**⁄ テ 3/ 此 いるぎ テ L 此 /以テ後 轍 v $\bar{\nu}$ n あ 利 莖葉根 **ا**،" ヲ バ化學的 樹 用 履 が 場 モ 是 皮ラ H 4 吾人 研究 者 供 一莖ヲ採リ黄色染ヲナ $\overline{\nu}$ 粨 採り褐色染ヲナ アラ 前 給 人工染料製造ノ目的ガ天然染料ヲ市場 栽 プ資料 ハノ大ニ 沭 3/ 私培廢絕 以テ獨逸ノ地位ヲ我國ニ於 ŊŸ ī 大 如 期待 ハナル ク天然染料ヲ輸入スル國民ノ シテ新規 供 シーイ 心得 セ ス ・シ又紺 w ンヂ ス是 違ナ 所 ナ jv ナ ゴピユ ý, 人工染料ヲ製造スルエ リ要ハ天然染料 1 ν 下染 ハ現今ニ 次ニ參考ノ爲メ古來我邦ニ 一ア」商 ラ テ占 ナ 於テモ 品 ス 是 L 豊富ナ 企望 ルヲ要ス「アリ 3 レハ現今丹柄 シ リ驅逐 テ販賣 市場ニ取引ア |ガ完成遂行 上夫アル w 我國 シ セ 更ニ ラル ベ ´ザ リ 一優良ナ , リテ十 丹殼、 於テ キ サ 於テ染料 ` ナ v = ン 及ビ リ而 S タル 上染料 費目三圓五 旣 'n 紅樹 テ 知 Æ = シ 供シ ノヲ 市場 證二 等 テ天然染料 あ 1 化學 b 單名寧ニ 過 得 ッ 1 ニ名ヲ 栽培 干 Ś 的 ギ w 錢位 事 テ ア ズ 市 成シ y シ 大部分 場 染 テ將 シ 7 微 市 植 w テ ス 價 來 べ 天 物

行 發 皮ヲ がし 及 一我國 F, ٠, 舳 根 ス 、染料ト混ジ黑色茶色等ヲ染ム市場ニ於テハ澁木ノ名ニテ知ラレ時價一圓ニ付二貫乃至二貫五間價百斤五圓內外ナリ●|やまも\| 樹皮ヲ採リ赤茶色若クハ黃色染ヲナスサレド多クハ單寧劑 ・いねぐす |ヲ採リテ黄色染ヲナス●|とち|樹皮ヲ採リ赤褐色染 葉ヲ採リくろ色染●ずみ類|樹皮ヲ採リ黄色染●|こりんご|同上●|はまなす|根皮ヲ採リ木綿ヲ樺色染ニ ノ染料 黄色染 ŀ ヲ テ ねるて葉 |樹皮ヲ採リテ鳶色染ヲナス 採 、八最モ重 リ黄色料ヲナ ノ蟲癭即チ五倍子ヲ採リ單 重要ナル モノヽ ス八丈絹 ナリ ノ黄色ハ是レニテ染 一めぎ材ヲ採リ黄色染ヲナス りうさうやまある、葉ヲ採リあるノ代用ニ 寧劑 ●ある | 莖葉ヲ採リ藍澱藍靛等ヲ造リ藍色紺色等ヲ テ重用 ホムル 由 ス●|そよで| 葉ヲ採リ赭褐色染●|あか ナ ŋ へびのぼらず はりぐは材 ノ煎汁 同上 一供ス きはだ なんてん 百目 テ 黃 色 ŋ 染

本

テやまももト

百

ŀ

云フ義

ナ

ŋ

百百

ŀ

۱

凡テ數

ノ多キヲ

唱

フ

語

=

≥⁄

テ

果實

ノ多ク房ヲナ

≥⁄

テ

ヲ採リ黄色染 じき生葉 絹 ヲ黄褐 法 一ノ定着劑 一ゑんじゅ 色染 ニテ緑色染ヲナス●くさざ,熟果ヲ採リ碧色染 ス あかね 八二供 花 にばな スルコト多シ 莟ヲ採リ黄色染● 根ヲ 採リ赤色染● 花 ヲ 採り紅色染 ひらなさ せんぶら す ひかづら熟果ヲ採リ帶黄綠 わられ 根ヲ採リ紫色料ヲナス此場合ニハ 根 ヲ採リ黄色染 'n ●かぎかづら、莖ヲ採リ赤色染 |根莖ヲ採リ黄色染 そめし 色染 ば 72 |葉ヲ採リ黃色染ヲ V ひさかき灰汁ヲ使用 せ 公一名 ●|くちなし|果皮及ビ はとく ナ ス Ė サレ 集ヲ ス ١. 採 果肉 めは 是 y v

現時外 ۲, 尙ホ此他色素岩 あぶらぎり m シ ı 國 テ外國 ゥ 3 1 り植 まこも ۴ 種 物性染料 クハ染料 ノ 植 サンダ 物一 いたどり 1 ーテハ ŀ ŀ ゥ シテ シテ我邦ニ ı うこん ۴ やまはぜ ぎしぎし フ ラ 輸入スル品 きゃうわう E" ン なら うめ フ ス かき チ = ぶな ハ なんさんはぜ ッ ク v やしゃ くねぎ ッ オ ۴ w ・ウィ チ うしころし w かし **ŀ*** すはう等古 力 y かし テ 7 キ ウィ は あをさ 類 Ì ۴ はん 3 Ħ IJ ブ ŋ 知ラ のき ラジ ゥ ひさかき ١ V jν ŀ, くるみ タ ゥ 1) イ ı だ **١*** ヂ のぶ ゴ 力 ム のき

等

7

ゥ ŋ

1

梅 種 並 効 用

田 村 利 親

楊梅 又其學名ヲ Myrica 題 花 植 物 单 雙子葉類 rubra SIEB. ノ楊梅 E Zucc. 科 = 屬 ŀ ス 稱 w シ 常線 Щ 野自 Ħ. 生 葉 ノ果實中最 喬木 غ خ **≥**⁄ モ テ 貴重ス 和名ヲやまもも べ # モ 1 ナ ŀ IJ 呼 F, 漢名ヲ楊 梅 ŀ 唱

楊梅 楊梅 如 'n ニシテ其味梅ニ似タリ故ニ名クトアリ又叚氏 名稱 果實ヲ楊家 種々アリ支那ニテハ宗ノ開寶本草 果、 ト云フハ山百百米、火實、鶴頭に 紅 楊果、 龍青、 = 楊梅 ガ北戸錄 楊氏子、 ŀ 云 (フ明 ニ朹子ト名ク楊州 火齊、 ノ李 金丸日 時 珍ノ本草綱 精 ラ人 ŀ モ 白 目 云 楊 フ , 梅 說 ヲ = 呼 依 デ ν 聖 JN 其形 僧 ŀ 云 水 フ 楊 其 Ŧ 他

楊梅ノ品種並ニ効用